

『自動車リサイクルの広報のあり方』にかかる消費者懇談会の概況について

1. 要旨

公益財団法人自動車リサイクル促進センターは、2014年5月22日に「『自動車リサイクルの広報のあり方』にかかる消費者懇談会」を開催した。

本財団は2013年6月24日に自動車リサイクル法指定法人10周年を迎え、同年11月22日に基調講演とパネルディスカッションで構成するシンポジウムを開催した。この際、パネルディスカッションに参加いただいた鬼沢良子氏からの提言をもと当該懇談会を企画した。

《提言内容》

- ・自動車リサイクルやJARCの存在・活動が消費者、特に女性に知られていない
- ・消費者や社会に自動車リサイクル法や運用組織の透明性・公平性が知られることが大切
- ・もっと女性の方に知っていただくために、女性を集めて意見を聞いてはどうか
- ・集まっていたいただいた方を通じて情報発信をしてもらってはどうか

当日は、環境問題関連のNPO等で活躍されている15名の女性の方から活発な意見を頂き、大変有意義な懇談会となった。

本財団は、当該懇談会で頂いた様々なご意見を参考にしながら、これまでの情報発信の振り返りを行い、そこで認識した課題に対応すべく、改善活動に取り組んでいる。

2. 開催概要

- (1)開催日時：2014年5月22日(木)13時30分から16時
- (2)環境問題関連のNPO等で活躍されている15名の女性
- (3)テーマ（懇談会では、次の3つのテーマについて意見を伺った）
 - ① 自動車リサイクルへの一般的なイメージ
 - ② リサイクル料金(預託金)を管理・運用する本財団への一般的なイメージ
 - ③ 本財団ホームページによる消費者向けの情報提供のあり方



3. 主なご意見

①自動車リサイクルへの一般的なイメージ

- ・自動車リサイクル制度の内容は知らなかった。
- ・制度があることは知っていたが、クルマを購入するときにもあまり気にしていなかった。
- ・自動車リサイクル法ができたことにより不法投棄が減ってよかった。
- ・自動車メーカーを始めとした自動車関連産業が一丸となって取組んでおり素晴らしいことだ。
- ・消費者はもっとクルマを長く使った方が良いと思う。
- ・部品のリユース情報がもっと知りたい。

②リサイクル料金(預託金)を管理・運用する本財団への一般的なイメージ

- ・リサイクル料金の使途がシュレッダーダストおよびエアバッグ類の適正処理、フロン類の破壊処理に要する費用であることを知らなかった。
- ・大きなお金を預かっていることだけでなく、これを第三者目線で監視する仕組みにも驚いた。
- ・多額の預り金をしっかりと管理していることを知ってもらった方がよい。預り金の可視化はよいことだ。
- ・預り金は職員の人件費や福利厚生にも使われていると思っていたが、リサイクルや情報管理以外には使われていないことがわかった。
- ・人件費を自動車メーカーが負担しているということを一般に広く知ってもらった方がよい。
- ・指定法人には天下りが多いと思っていたが、そうではないことがわかった。誤解しているひが多いと思うので、広く知ってもらった方がよい。

③本財団ホームページによる消費者向けの情報提供のあり方

- ・様々な関係者に向け多くの情報が発信され、大変充実している。
- ・発信する情報が自動車メーカーや関係者サイドによってなく中立性を感じる。
- ・消費者もクルマの保有の有無に拘らず3Rの取り組み状況を知らなければならない。
- ・沢山の情報があるため最初に訪れる方が何処を見るべきか分かりにくい。
- ・消費者がまず何処をみるべきか、アピールポイントを分かるようにした方がよい。
- ・自動車リサイクルのコンセプトや制度ができたきっかけが分かるようにした方がよい。
- ・子どもでも理解できる内容が大人にも丁度よくわかりやすい。
- ・消費者を貴団体ホームページに誘導する仕掛けが必要。
- ・直接、消費者と接点を持ち、お互いの顔が見える形で広報に取り組んだ方がよい。
- ・クルマを購入するタイミングで自動車販売店がきちんと説明するということが大事だ。

《その他》

- ・お金をかければよいというものではない。お金をかけない情報発信の仕方を考える必要がある。
- ・自動車業界によるがんばっている様々な取組みをもっと情報発信してほしい。
- ・自動車を持たない方もリサイクルの取組みを知らなくてはいけない。
- ・国にも協力してもらい、質のよい情報を学校教科書に掲載できるようにしてほしい。
- ・自身が買った自動車を長く乗るという観点だけでなく、一つの自動車を何人にも亘ってでも長く使うということが大事。